

(メッセ海外通信 VOL.47 2018年10→12月号掲載記事)

～「朝鮮通信使」世界記憶遺産の登録1周年を迎えて～

下関市総合政策部国際課

(釜山広域市派遣職員)

白野 哲

朝鮮王朝時代に日本に派遣された外交使節「朝鮮通信使」の関連資料がユネスコの世界記憶遺産に登録されてから1周年を迎えたのに合わせ、韓国釜山市や全羅南道・木浦などで記念事業が開催されましたので紹介いたします。

朝鮮通信使といえば、下関市でも毎年馬関まつりで再現行列が行われているので馴染みのある方も多いのではないのでしょうか？

1. 「ユネスコ世界記憶遺産、通信使記録物」展示会

10月26日から11月25日まで釜山博物館企画展示室において、日本の重要文化財に指定された「朝鮮国王国書」や「別幅」「雨森芳洲肖像」など18点をはじめとする通信使記録物115点が展示されました。本市からは下関市立歴史博物館と赤間神宮に保管されている資料が展示されました。

世界記憶遺産として登録された通信使記録物は、日韓両国で111件333点あり、本市に所在する5件10点の資料も登録されています。

日韓両国で保管されている朝鮮通信使記録物が一カ所に集められた展示会が開かれるのは今回が初めてとのことで、今後日本での巡回展が期待されるところです。

2. 「朝鮮通信使船」の進水式

10月26日、韓国南西部の全羅南道・木浦の国立海洋文化財研究

所で朝鮮通信使の正使が乗った船を復元した「朝鮮通信使船」の進水式が行われました。

本船は2015年から始まった朝鮮通信使船の復元事業により、韓国で初めて製作された実物大の朝鮮通信使船です。船は全長34メートル、総重量149トン（エンジン含む）で、定員72人。航海速度は7ノット（時速13キロ）ですが、エンジンを稼働させれば10.5ノットで移動することができます。

進水式では、真心で隣人を迎えるという「誠信交隣」をテーマに、扁額（へんがく、船の名称が書かれた額）の除幕式や告祀（厄払いの伝統儀式）、日韓両国の芸術団による公演などが行われ、下関からは馬関奇兵隊が参加し、進水式を盛り上げました。

今後、復元された船は船上博物館や体験場として運営され、朝鮮通信使祭りなどの行事に参加するほか、将来的には日本への航海を推進する計画もあるようです。

ここまで世界記憶遺産登録1周年記念イベントについてご紹介してきましたが、改めて通信使記録物が世界記憶遺産へ登録された意義を考えると、記憶遺産登録申請書に記載された次の一文に集約されているのではないかと思います。

「この記録は両国の歴史的経験に裏付けられた平和的・知的遺産であり、恒久的な平和共存関係と異文化尊重を志向する人類共通の課題を解決するものとして、顕著で普遍的な価値を有している」

朝鮮通信使事業を通じて、この記録物が世界記憶遺産として認められた意義や朝鮮通信使に込められた先人たちの思いが広く発信され、日韓関係の更なる躍進につながることを切に願うばかりです。



【「ユネスコ世界記憶遺産、通信使記録物」展示会の様子】



【「朝鮮通信使船」の進水式において演舞する馬関奇兵隊】